

2025年の姿

●年金制度に対する不公平感が解消され、信頼が回復している。

- ①基礎年金は全額税金でまかなわれており、保険料不払い問題が解消し、みんなで支える公平な制度になっている。
- ②社会連帯を基本とする「世代と世代の助け合い」のしくみについて、すべての世代で合意形成がされている。

●すべての人に基礎年金が支給されており、真の「皆年金」を実現している。

- ①所得にかかわらず、18歳以降5年以上日本に住んでいる人は、誰でも基礎年金を受給できる。

●年金制度が安定した持続可能な制度となり、安心して老後生活を送ることができる。

- ①基礎年金を税方式化することで、保険料負担は報酬比例年金の分だけの15%程度となり、十分負担可能な水準となっている。

②老後の生活費の基本部分が、公的年金で生涯にわたり保障（現役世代の手取り年収の55%）されており、安心して老後生活を送ることができる。そのため、基礎年金は7万円に引き上げられている。

③現役世代の年収と高齢世代の年金をそれぞれ税社会保険料負担を除いた手取り額で比較しているため、経済的な変動に応じて、自動調整されるしくみとなっている。

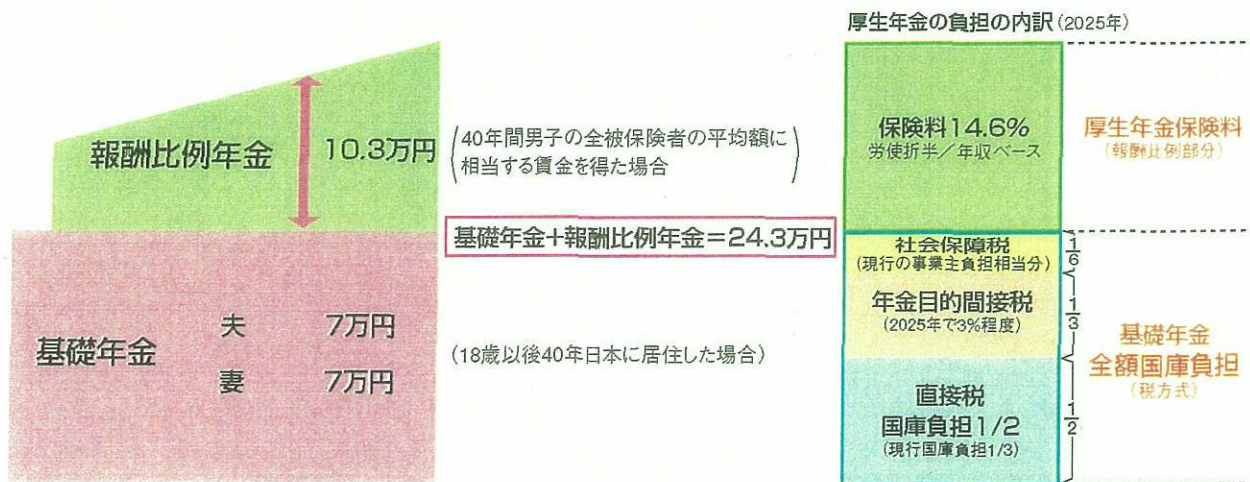
●年金の積立金は、高齢化のピーク時でも1年程度であり、運用は元本確保・安定運用を基本としている。

《年金改革の姿》

●2025年の望ましい年金改革の姿は「定額基礎年金+定率報酬比例年金」の「2階建て」方式

- ①定額と報酬比例の組み合わせで、現役時代の賃金格差が圧縮される。
- ②老後の格差拡大に歯止めが掛けられる。

定額基礎年金+定率報酬比例年金の「2階建て」方式



給付水準：40年加入の片働き世帯モデルの場合、24万円（手取額21万円）

現役時代の手取り年収比で55%の手取り年金

∴平均的な受給額は23万円（手取り20万円）程度

基礎年金：18歳以後40年日本に居住した場合 月額7万円

∴現行6.7万円を3千円（報酬比例部分の5%カット相当分）引き上げる

報酬比例年金：賃金水準と加入期間に応じて支払われる（現行の年金算定方式に準じる）